

日本精神衛生学会第33回大会
ポストワークショップのご案内 ー2017年10月9日(月・祝)ー

日本精神衛生学会第33回大会が、2017年10月7日、8日の両日、ルーテル学院大学で開催されます。続く9日に学会ワークショップを大会長・加藤純先生の助力を得て企画、以下3つをご用意致しました。福祉・心理・教育・看護・医療といったどの領域の方からも関心を寄せていただける内容と心得ます。ご参加お待ちしております。

日本精神衛生学会
研修担当理事 福島真澄

ポストワークショップ-S ソーシャルワーク・スーパービジョン(10時~16時)

講師 福山 和女(ふくやまかずめ)

ルーテル学院大学名誉教授。専門は、医療福祉、スーパービジョン、コンサルテーション、家族療法。

ルーテル学院大学大学院附属「包括的臨床コンサルテーションセンター」センター長。

同志社大学大学院修了、カリフォルニア州立大学大学院修了(MPH公衆衛生学修士)。

アメリカカトリック大学大学院博士課程修了(DSW社会福祉学博士)。

[主著]

2005年『ソーシャルワークのスーパービジョン』ミネルヴァ書房

2008年『新医療ソーシャルワーク実習』(責任編集)川島書店

2016年『スーパービジョン イン ソーシャルワーク』(監修)中央法規

[企画者からのメッセージ] 理論や技法を学んでも実践することは難しいです。逆に、実践を言葉にして説明すること(理論化)も簡単ではありません。そんな時スーパービジョンが欲しいと思いますが、自分の職場では得られていないと思う方も多いと思います。しかし、福山先生によると職員間の様々な対話にスーパービジョンの要素が含まれています。実は気付いていないだけかもしれません。実践と理論の架け橋としての効果を期待してこのワークショップを企画しましたが、スーパービジョンにはいろいろな効果があります。幅広く学んで頂けると幸いです。

ポストワークショップ-F 児童福祉領域における家族支援 (13時~17時)

講師 衣斐 哲臣(いびてつおみ)

和歌山大学教職大学院教授。臨床心理士。専門は、臨床心理学、児童福祉。

精神科で15年、児童相談所で20年勤務の後、現職。児童相談所では、児童虐待、不登校、発達障害、非行などに悩む家族をシステム論的家族療法やブリーフセラピーを用いて支援。

[主著]

1997年「児童相談所における家族療法的介入の一モデル：体罰習慣がある家族に対する助言指導と保母・教師へのコンサルテーション」『家族療法研究』14巻2号

2002年「『子どもを叩いてしまう』と訴えてきた母親を、はたして支援しえたのか」『家族療法研究』19巻3号(2008年『子ども相談・資源活用のワザ』にも採録されています。)

2008年『子ども相談・資源活用のワザ：児童福祉と家族支援のための心理臨床』金剛出版

2012年『心理臨床を見直す “介在” 療法：対人援助の新しい視点』明石書店

2017年「ひとり親家庭の親の語りとレジリエンスを育む対話」『こころの科学』193号

【企画者からのメッセージ】 子どもに上手く関わっていない親や、虐待をしていると思われる親への支援は、対立や拒否に陥りやすいです。目の前で子どもを叩く親とも見事にジョイニングした実践例を1997年の『家族療法研究』で読んで衝撃を受けました。あるワークショップで衣斐先生の家族面接ロールプレイを目の当たりにしましたが、対立しているはずの家族が衣斐先生の質問に答えるうちに、実はお互いを大切に思う温かい家族だったことが明らかになりました。とても自分には真似できないと思いましたが、皆さんに優れた実践のワザや考え方を知って欲しいと願い、このワークショップを企画しました。児童福祉の現場で保護者を支援している皆様のご参加をお待ちしています。

ポストワークショップ-T 複線径路・等至性アプローチ

～実践とつながる質的研究の可能性～（13時～17時）

講師 荒川 歩（あらかわあゆむ）

同志社大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程修了。博士（心理学）。

立命館大学人間科学研究科研究支援者、名古屋大学大学院法学研究科特任講師を経て、

武蔵野美術大学 教養文化・学芸員課程准教授。専門は心理学。

【主著】

2008年「未婚の若年女性の中絶経験：現実的制約と関係性の中で変化する、多様な径路に着目して」『質的心理学研究』7号(共著)

2012年『TEMでわかる人生の径路：質的研究の新展開』誠信書房(分担執筆)

2014年『「裁判員」の形成、その心理学的解明』ratik

2015年『ワードマップTEA 実践編：複線径路等至性アプローチを活用する』新曜社(分担執筆)
など

【企画者からのメッセージ】 ワークショップの題名が長くて申し訳ありません。「複線径路・等至性アプローチ」とは、最近注目を集めている質的データ分析の名前です。初めて見ると分かりにくく取っ付きにくいと感じられるかもしれませんが。良く見ると、分析の目的や方法を良く表している名称です。ある共通の地点（等至点）にたどり着いた人達が、複数の異なる径路を通過して来たとして、途中の分岐点でどちらの道に進むかを周囲からの影響を受けながら選び、どのような価値観の変容を体験したのかを分析します。特に、時間の流れに沿って体験過程を明らかにすることを目的としたインタビュー調査に取り組もうとしている皆様にお勧めします。

開催日：2017年10月9日（月・祝日）

会場：ルーテル学院大学（東京都三鷹市大沢3-10-20）

参加費：5,000円（学会員・非学会員・院生とも同額）

申込締切：2017年9月22日

参加申込方法、会場へのアクセスなど詳しくは

日本精神衛生学会第33回大会の専用ウェブサイトをご覧ください。

<https://sites.google.com/view/seishineiseigakkai-33rd-2017/>

